

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2894000203		
法人名	株式会社JAWA		
事業所名	街かどケアホームそよか		
所在地	姫路市大津区勘兵衛町1丁目26番		
自己評価作成日	平成23年4月9日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.java-jp.com/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉市民ネット・川西		
所在地	兵庫県川西市中央町8-8-104		
訪問調査日	2011年5月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ノーマライゼーションの考え方にに基づき、認知症があっても、当たり前のようにその方がその方らしく過ごせる日常生活のあり方に日々真剣に取り組んでいる。家庭的な雰囲気の中で、ご利用者が出来る事・したい事を職員が奪わないように、本人の気持ちやペースを大切にしている。また、ホスピタリティの精神のもと、心からのおもてなしの気持ちで声に出されない真のニーズにもお応えできるように努めています。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

住宅と工場が混在している地域ではあるが、周囲には蓮池が多く、比較的静かな環境である。玄関前は広い駐車場であり、利用者の軽い運動の場としても利用している。秋祭りの子ども神輿が立ち寄り、利用者も一緒に楽しいひと時を過ごす場ともなっている。
 法人全体の理念を職員全員が理解し、現場で日常的に実践できるよう研修を重ねている。「まわりの協力があって初めて物事が達成される」と、感謝の気持ちをもってチームケアを推進することを目指している。利用者の暮らしが地域により密着したものとなるよう、事業所がもつ専門性を地域に向けて発信し、地域の中で利用者が生き生きと暮せるように望みたい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念を大切に、理念研修に力をいれている。日常でも理念のほか、JAWAスタンダード・ホスピリティコンセプトには毎日立ち返っている。	法人共通の理念を理解し日々の業務で実践できるよう新人研修に力を入れている。現場での同行研修では真剣な実践姿勢を育み、利用者の生活に寄り添う個別性を大切に指導を行っている。新人教育は現任職員にとっても理念の原点に立ち戻る機会となり、新たな気づきにつながっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	まずは近隣の方への挨拶を大切にしている。またイベントの際には地域のボランティアも積極的に受け入れている。	自治会に加入し、神社のまつり等の行事に参加している。公民館の子どもサークルがクリスマス会に来訪し、利用者との楽しい交流の一時となった。年1回の地域清掃には職員が参加し、地域住民と挨拶を交わしている。	事業所が持つ認知症ケアに関する専門性を、地域高齢者介護にも役立てるようアドバイスする機会をつくられてはいかがか。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所としても地域のイベントに参加し、認知症の方の理解に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議ではなるべくわかりやすく報告し、いただいた意見をサービスの向上に生かせる様に努めている。	利用者や家族のほかに自治会長・副会長の出席で2か月に1回開催。地域の情報提供があり行事等に参加できている。事業所からは利用者の現状報告や写真を添えた行事報告等を行い、サービス向上のための意見交換を行っている。市関係者の出席はない。	現場の課題解決には市担当課の支援が必要なこともあり、事業所現状を共有していくためにも、運営推進会議への出席を引き続き求められてはいかがか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政担当者とは機会があるごとに連絡をとりあい、協力関係を築いている。	市担当者とはメールや電話で必要な連絡を取り合う関係である。施設長が実行委員長を務める19事業所のグループホーム連絡会には、年1回総会時に市担当課から出席があり、意見交換を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	理念研修ではノーマライゼーションについて具体的に学び、身体拘束をしないケアを考え、そして実践をしている。	理念に基づき、身体拘束をしない方針を実践している。GPSを持たずに散歩に出た利用者を探したことはあるが、リスクを抱えながら自由な暮らしを保障することについては、家族の了解を得ている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法については研修で学ぶ。また、虐待のニュースがあるたび考える機会を設けている。	高齢者虐待防止関連法等に関しては新人研修で学んでいる。虐待事例が新聞等で話題になったときは、施設長が文書で回覧し、職員個々の考える機会としている。最適な介護提供となるよう職員の体調などにも施設長が常に心配りしている。	

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用する利用者が複数おられるため関係者と話し合う機会も多い。また、外部研修も積極的に参加している。	成年後見制度利用者が2名、申請中が1名いるので、職員も研修を受け必要な知識は身につけている。	権利擁護に関する制度の情報を利用者や家族にも紹介し、さらなる活用につなげてほしい。
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時などでは出来る限りわかりやすく説明をし、納得いただけるよう努めている。	契約前に、事業所の雰囲気を理解してもらうため体験入所や見学を勧めているが、その際に理念に則ったサービス内容などを紹介している。契約時には質問が多い料金や退去条件などを念入りに説明し、納得の上での入居につながるよう図っている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を明確に謳っている。また小さな苦情やちょっとしたご意見をいただけるようナイスアイデアボードを玄関に設置し誰でも記入いただけるようにしている。	運営推進会議で発言された家族の感想等は参考にし、できることは運営に活かすよう努めている。直接意見を言うことをためらいがちな家族の気持ちを察し、来訪時には積極的に話を伺うようにし、小さな苦情も真摯に受け止め解決につなげている。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月定例の職員会議をおこなっている。日常でも職員の意見や提案は何より大切にしている。	介護の中での気づきの大切さを職員が自覚できるように、意見等のメモを貼り付ける「ナイスアイデアボード」への記入を勧めている。職員のアイデアはホスピタリティ会議等で検討し、具体化に取り組んでいる。職員から蓋付きゴミ箱やおかゆを炊ける炊飯器の提案があり、即購入した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スキルアップ試験制度でスキル向上に努めるとともに、基本給の等級が上がる仕組みになっている。またやりがいのある仕事となるよう、自己管理型の目標管理制度を導入し、結果が賞与に反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者の力量の把握をし、働きながらのスキルアップのためのトレーニングやフォローに取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者はグループホーム連絡会で役員をつとめ、姫路市内のグループホームが相互に高めていけるよう取り組んでいる。		

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居して間もない時期には利用者と早期に信頼関係が結べるよう、様々なサービスの提案をしコミュニケーションを図っている。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居直後は当面の間、毎日の近況報告を実施し、ご家族の不安の把握とその解消、そして早期の信頼関係作りに努めている。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談の時点で、その時に必要としているサービスが何であるかを広い視野で伺い、専門的な立場で相談に乗っている。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事・やってみたいと思う気持ちを奪わないよう、職員は生活のパートナーとしての関係を築いている。		
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には出来る範囲内で協力をいただけるよう、日々の関係を大切にしながら相談をしている。		
20	(11) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの関係や場所が継続できるよう、病院や散髪屋も馴染みの場所に行けるよう支援している。	顔なじみの美容師の訪問があり、女性利用者は利用している。男性利用者には行きつけの理容室へ送迎を行っている。また毎月の命日に墓参りを希望する利用者には職員が付き添うなど、これまでの生活習慣を尊重した支援を続けている。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士がよい人間関係を築けるよう、関係を把握しさりげなく支援している。		

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了時には、今後もいつでも相談に乗れ、出来る限りの協力ができることを伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の生活に関する意向(真のニーズ)の把握に努め、介護者の価値観や都合を押し付けるのではなく、ご利用者の立場で考えられるようにしている。	利用者の言葉の端々から垣間見える本音を聞き漏らさず、会議等で共有し、職員全員が利用者一人ひとりの気持ちに向き合える支援を目指している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にはこれまでの暮らしの把握をするため必ずアセスメントをしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録を毎日記入し、お一人おひとりの情報を職員全体で共有している。介護職員は業務に入る前、必ず申し送りを受けケース記録を確認している。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月会議を実施し、介護計画が現状に即しているか、新たなニーズが出ているかを話し合っている。	毎月のモニタリング会議で、利用者の要望やニーズに夫々の計画があっているか検討している。計画作成者がそれらをまとめて計画原案を作成し、利用者や家族に説明し、意見を伺って完成させている。利用者の状態変化時には随時計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の気づきを記録し、会議で実践方法を検討し、またその評価にも努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟に対応することを最も大切な事としてとらえている。ご要望に対しては「出来ない」のではなく、「出来る方法」を常に考えている。		

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握に努め、豊かな生活を送れるよう支援することに努めている。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との関係の継続を支援している。また、適切な医療を受ける事が出来るよう、日常の体調管理と近隣の病院の情報収集にも努めている。	かかりつけ医の受診継続を原則とし、職員が支援している。遠方で半日を要する場合は、家族の協力を得ている。利用者の日々の健康状態や医療機関との情報把握等は、看護師と連携し支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員に日々の気づきを正確に伝えられるよう、関係作りに配慮している。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	出来る限り早期の退院が出来るよう、入院中は病院関係者と情報交換や相談は欠かさない。	必要最小限の入院、或いは早期の退院に向けた利用者の状況確認等、家族、医療関係者とも情報の共有を図っている。特に退院時は、生活リハビリを主眼に置いた受け入れ体制確保に努めている。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	出来る事と出来ない事を明確にし、また出来る為の方法を模索している。	今年度7月より、看護師との連携体制が強化されるとともに、事情所としての重度化や終末期に向けた指針の文書化等の整備を予定している。それに向けた職員体制や研修の充実にも努めていく考えである。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は定期的に救命講習を受講している。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施している。	定期的に避難訓練を実施している(夜間想定含む)。出火場所を想定し、利用者も一緒に避難経路を確認している。近隣住民への協力の働き掛けはまだ十分ではない。	通報システムの完備はなされているが、地域との協力連携への働きかけの検討を期待したい。

自己	者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーや自尊心を傷つける事がない様、職員は常に言葉遣いや姿勢に気を遣っている。	職員入職時から、継続してマナーや接遇研修を行い、マニュアルの周知にも努めている。管理者は特に、居室への入退室時のマナーについて、職員に繰り返し注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	サービスをするしない、またその良し悪しを常に伺い、自己決定が出来るように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の価値観や都合を押し付けることなく、一人ひとりのペースを常に意識し、日々の生活を共に過ごしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人のおしゃれを支援することも大切な事であると研修で学んでいる。そのためのお手伝いも日々実践している。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の際は味見をしていただいたり、準備も出来る範囲内で一緒にしている。食のホスピタリティも実践できるよう努めている。	委託業者から既成メニューの食材を購入しているが、週1回は、利用者の希望メニューに添って、買物から調理等利用者と職員と一緒に作業している。利用者個々の役割を活かしながら、楽しく食事が出来る雰囲気的大事にしている。	利用者の楽しみでもある週1回の共同作業の機会を、もう少し増やされてはいいかだろうか。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量を把握し、状態や習慣に応じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの状態に合わせた口腔ケアに努めている。		

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンや失禁の種類を把握し、出来る限り自立に向けた支援に取り組んでいる。	職員はモニタリングにより、利用者個別の習慣や状況を把握共有している。職員は、その人にとって適切な声かけ、タイミングに注意し、自立を促す支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄や便秘については把握に努めている。またその予防について様々な方法を提案している。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は職員の都合で決めることなく、一人ひとりの希望や状態にあった方法で支援することを心がけている。	入浴は、利用者個々の状態、希望を優先し、リラックスしてもらう機会としても捉えている。入浴困難な人には、いやな理由など何らかの原因を明確化し、対処するようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床や就寝のタイミングなどは過去の生活歴や習慣も把握し、その日その日の要望や状況に合わせて柔軟に対応している。また安楽な姿勢保持の技術向上にも努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬についてはその理解に努めている。また服薬間違いや漏れがない様、防止策を実施している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションや楽しみの提案を行っている。また役割を持ってもらえるよう、出来る事ややってみたい事を奪わないように気をつけている。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望で外出することも多い。また、普段行けない場所へも特別な時には行けるよう本人の希望の把握とその支援も努めている。	毎月の月間スケジュールの中で、利用者一人ひとりの希望やニーズを踏まえたおおまかな予定を立て、それを基に、買物や目的に応じた支援に努めている。日常的な散歩など、積極的に外気に触れる機会を設けている。	

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者がお金を持つことも大切な事であると認識しつつ、預かり金を金庫でお預かりしていることを本人にその都度伝え安心してもらえるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙を大切な人と継続的に出来るよう支援している。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある雰囲気作りに配慮しながら、生活しやすい環境を作るように努めている。	普段の生活での音やにおいなどが、感じられる生活感を重視している。オープンキッチンには開放感があり、利用者が見たり、参加しやすい環境になっている。装飾は季節をさりげなく感じられる程度にとどめ、落ち着いた雰囲気を心がけている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者同士が心地よく、もしくは気が合わない利用者同士が苦痛を感じないように、テーブルの配置や逃げ場にも配慮している。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものや使いやすいものを持って来ていただけるよう、呼びかけている。	利用者それぞれに、思い思いの身の回りの日用品を置いており、これまでの生活がうかがわれる。テレビを見たり、趣味を楽しむなど、好きなことをして過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立支援と安全管理という二つの視点を持って、リスクを減らしながら出来る事をしやすい環境づくりを工夫している。		